

2017年11月14日

## 【コラム⑪】～旅レポート～「アフロディシアス」

ただっ広い青空にそびえ立つ大神殿。まるで迷路のように入り組んだ道。ここはトルコ南西部に位置するアフロディシアスである。イズミルから車で2時半ほどの距離にあるアフロディシアスに、訪れる観光客は少ない。復元がまだまだ進んでいないアフロディシアスには、現代の手が加わっていない魅力がある。エフェスのように古代の町並みを再現した遺跡もちろん素晴らしい。見応えもあり、見終わったあとの満足度も高い。一方、アフロディシアスにはどこか懐かしいような現代人の心の隙間を埋めるような何かがある。

アフロディシアスの歴史は古く、もともとは紀元前2800年～2200年頃に築かれ、1世紀頃から4世紀頃まで栄えた町と言われている。現在残っている遺跡の大半は2世紀頃のものである。町の名前の由来は美の女神アフロディーテからきており、町の代名詞ともなる神殿に祀られていた。この神殿は5世紀に建て直されたものであり、比較的新しい。現在も保存状態良く残されてる。アフロディシアス周辺では古くから良質な大理石が産出され、彫刻技術が発展した。彫刻や装飾品など近隣諸国に広く輸出していたようである。現在でもアフロディシアス博物館では素晴らしい彫刻の数々を見ることができる。



遺跡の入口をくぐり、道を進んでいくと、まずピクニックのできそうな広い野原に白いアフロディーテ神殿をみることができる。当時の神殿は色彩豊かに色づいていたようであるが、現在は大理石が剥き出しになり、柱も14本残っているのみである。しかし色が褪せても青空のもとで白く輝く神殿はなんとも神々しく美しい。その神殿を背にして進むと段々と道が狭くなり、道が右、左、真ん中と別れていく。迷路のような



道で看板が無ければ迷ってしまいそうである。この細い道々は、ビザンチン帝国時代の司教の大邸宅やアゴラ、音楽堂に続いている。音楽堂は長い間地中に埋もれていたため、ほぼ完ぺきな状態で残っている。

さらに小道を突き進み、橋を越え進んでいくとモザイクのある部屋に出る。ここはハドリアヌスの大浴場である。ここまで来ると、遺跡を「観光」ではなく「冒険」しているような気持ちになる。きっとモザイクを見つけた途端、宝物発見と叫びたくなってしまふことだろう。モザイクの部屋を抜けると回廊、体育場、ティベリウスの閼門がある。印象なのは回廊である。左右均等に美しい柱が寂しげに並んでいる。この回廊を過ぎると遺跡のメインとも言っても良い古代劇場があるのだが、是非回廊にて足を止めてみてほしい。風が吹き抜けると気持ちいい。目をつぶると古代の町の情景が浮かんでくるようである。

さて、古代劇場だが、紀元前1世紀に造られ1万人もの観客が収容できたという。迫りくる観客席は迫力満点である。保存状態がとてもよく、しっかりとした状態で残っている。そしてフィナーレは競技場である。競技場に向かう道は一本道。夕焼けのころには空が段々と赤紫色に染まっていき、それまでの爽やかな様相とは異なり、悲しいような切ないような表情へとかわる。この競技場の収容人数は3万人であったと言われている。競技場から見る夕焼けは素晴らしいものであった。

2017年にユネスコ世界遺産の仲間入りをしたアフロディシ阿斯。トルコの遺跡の中でもトップ5に入るお勧めスポットである。11月19日12:00よりBS-TBSにて放送される「トルコ大紀行」エピソード3でも一部アフロディシ阿斯を紹介する。是非ご覧頂きたい。

(アフロディシ阿斯、2017年7月訪問)



トルコ共和国大使館・文化広報参事官室広報代理店

株式会社フォーカス